

# 銀河通信

NPO 法人 北斗七星  
〒376-0006 桐生市新宿 3-3-19  
(桐生市総合福祉センター内)  
Tel 43-6151 Fax 46-9504

## 水平か?! 垂直か?!

初

水害による避難訓練を実施しました

放課後等デイサービス事業所 きらきら星・いちばん星では、春休み中にそれぞれ初めて水害を想定した避難訓練を実施しました。

避難方法の判断や避難の手順等々、皆さんをどう誘導したらよいのか、様々な状況を想定しました。

センター内にとどまるのか（4階にて待機＝垂直避難）、他の施設へ移動するのか（水平避難）。事前に考慮しての訓練でしたが、今までにない訓練であったため、誘導する側の指導員は緊張感を持ち、でも子供たちは落ち着いて行動してくれました。

実施後の反省点としては、水平避難を行ったいちばん星では、靴を履きかえて車に乗り込んだが、上履きのまま移動し、外靴を持参した方がより迅速に避難できたのではないかと。実施日時を梅雨時等、豪雨を連想しやすい季節に行った方がよいのではないかと意見が出されました。

一方垂直避難を行ったきらきら星は、日常と何ら変化のない活動場所での“その場にとどまる”避難訓練であったため、子供たちには訓練の意図があまり伝わらなかったのではないかと考えられました。今後、日頃の活動時に絵本や散歩を通して雨量や河川の事等々、知らしめることが必要であると感じた訓練でした。

自然災害は、いつ起こるかわからない! 備えあれば何とやら。日頃から心がけ、気にかけて、何があっても大丈夫。何もなければそれでよし! 何も無いのがいちばん! ですね。



作業の合間に  
ホッ!!

## 楽しみながら 作っています

— 装飾バージョン —

北斗七星の家



『北斗七星の家』では、作業の合間に、折り紙を折ったり、切ったり、ちぎったり、貼ったりして季節を感じるような飾りを作っています。

完成した作品を窓に飾りつけると他の指導員や保護者の皆さんにも褒められ、達成感があります。

紙の端と端を合わせて折る、折り目を付けるこのような作業では合わせる部分に印を付けたり、手を添えて折り目を付ける力の強さを意識してもらっています。

いろいろな指の使い方をする事により楽しみながら脳を心地よく刺激しています。

黙々と折り紙をちぎっています?

大小様々...それぞれの個性!!



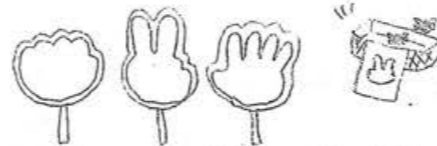
指先を動かして  
右脳を元気に?

# 遊びながら。実は学んでいます?!

## きらきら星

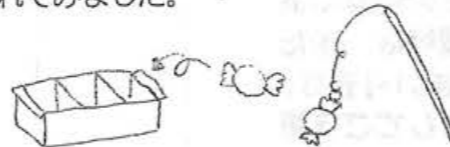
“放課後のひとときを楽しく過ごしてもらいたい”という思いで日々、遊びの考案に努めています。遊びの趣向やルールをはじめ、身近な物で手作りした小道具などには学びの要素を取り入れる為にけっこうこだわっているのです…

例えば  
ジャンケンゲーム



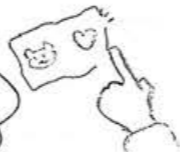
単なる“勝ち負け”ではないジャンケンゲームでは、自分の手型作りから始めて、合図で挙げた手型と同じ手の形のところへ別れ進むルールです。子ども達の負担を少なくし、**マッチングの学び**を取り入れてみました。

例えば  
魚釣りゲーム



最初、手作りの池は見た目でもわくわく出来るよう大きく作りました…が、“一つの池から1匹の魚を釣る”というルールの方が“1”という**数の概念を捉える為には有効か!?**と話し合った結果、池を3つに増設し、1匹ずつ釣ってもらうようにしました。釣った3匹の魚(お菓子)は仕切り付きの箱へ1匹ずつ入れる事により、“3”の**数を明確に捉えてもらう**ことへ繋がると思います。

例えば  
手作りチョコを指差して選ぶ



好きなチョコレートを“取る”のではなく“指差し”で選んでもらいました。直接触れずに**選んだ物を明確に伝える**学びです。チョコレートに触れてしまった時の為に、ラップをかけておきました。

## ☆いちばん星☆

小学生高学年から中・高校生がメインのいちばん星では、体を使った遊びを行っています。例えば・・・**動画を観ながら上手に模倣?!** ストレス解消! **エビカニクス!!**。体をほぐして心もほぐそう!! **ストレッチ体操**など……………

今回は、寒い冬でも室内で行える**障害物競走**を紹介します。

### ⊗ 一種目 バランスボール転がし ⊗

目印になるテープ線の上にバランスボールをコロコロ転がします。目で線をおい、両手を使ってボールをコントロールする。しかも**中腰**で。身体(特に目・手・足)の**動きの連動**が要求されます。指導員は補佐をしながら、手の返しや視線の先なども確認し行いました。



### 😊 二種目 紐くぐり 😊

ボール転がしが終わったら、次は紐くぐり。丸椅子の高さに合わせたビニール紐を腹ばいになりながら、**ほふく前進**。手足の**動かし方**、**体の大きさの認識**などが要求される競技。紐が低かったこともあり、またいでしまう子には指導員が一緒に行って(同時模倣)くぐってもらいました。



### 🏁 三種目 雑巾がけ競争 🏁

最後は、雑巾がけをして、ゴールで賞品のお菓子をゲット。**手のひら全体**で床をとらえているかを見させてもらいました。**賞品のお菓子**はおやつでたべました。



今度ば商品パッケージ

2/6 桐生 圭

ほんわか絵柄「すごく気に入った」

2/6 桐生 圭

障害者の創作活動と経済的自立を支援する「あめんぼプロジェクト」で活動するりんたろうさん(23)...

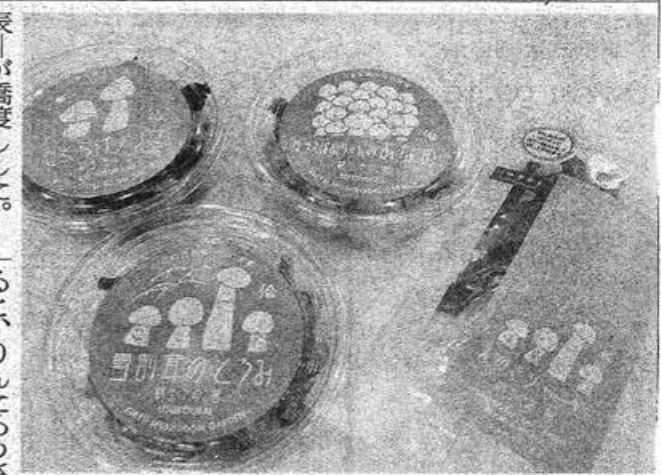
桐生圭の「園

「あめんぼプロジェクト」りんたろうさんデザイン



りんたろうさん(写真中央)が描いたキノコをもとにデザインした

りんたろうさんは2014年に地元運送業のロゴも手掛け、今までのデザインを手掛ける金子義弘さん(51)...



ほんわかとした絵柄が受けている



田島圭さんは1981年桐生市生まれ。桐生東中、桐生市立商業高をへて美容師に。桐商野球部コーチを務めた後、訪問美容業などをへて、桐生市で福祉事業を営むプライマリーグループに勤務。2018年独立し株式会社「アソビバ」創業。...

重症障害児にも「当たり前」を

みどり市大間々町で昨秋、重症心身障害児に特化した放課後デイサービス事業所「グラニ大間々」を開業した、株式会社「アソビバ」の田島圭社長。美容師、高校野球のコーチをへて福祉事業に転身した異色の経営者に、障害福祉のあるべき姿や、真の共生社会への思いを聞いた。

「福祉業界に入ったきっかけは。田島 美容師として大間々町のサロンで働いていたとき、10年間も自宅で引きこもっていた18歳の女性が来店し、腰ぐらいいまであった長髪をカットしました。すると女性の母親に「娘が変わった」と感謝され、その母親は毎月来店するようになった。弱っている人でも、ちょっとした助けがあれば社会に出られるようになる。そう思ったのが、福祉の仕事に興味を持った最初のきっかけです。」

真の共生社会をめざして

訪問美容師としてさまざまな福祉施設を訪れ、高齢者や障害者の人が笑顔になる様子も見てきました。かっこよく、美しくなりたいという思いはすべての人に共通で、そのお手伝いできたと思うのも、福祉を志した理由です。一重度障害児に特化した理由は。田島 日本では要介護・要支援の高齢者が500万人いるのに対し、障害児・者は800万人といわれ、こちらのほうが福祉の需要は多い。それなのに社会的な受け入れが進んでいないのが実情です。重度の肢体不自由と知的障害を併せ持つ重症心身障害児が通える施設を増やす

方針を国が打ち出す中、対応する施設は桐生・みどりの両市には3件しかないこともあり、前橋市を拠点に関東で重症児向けデイサービスを展開している「グラニ」(小倉丘礼社長)に加盟し、独立することにしました。主に特別支援学校に通う障害児を受け入れ、学齢期から成人期までサポートします。1日5人定員、看護師や保育士ら常時4人体制で、医療的ケアや個別リハビリなど適切な療育を行います。野外活動を積極的に行うことも特徴にしています。

「今後の展開と理想は。田島 介護が障害がいずれかの指定を受けていれば、要介護者と障害者の両方を受け入れられる「共生型サービス」の新制度ができました。弊社もこの制度を利用し、近い将来は両方をいっぺんに受け入れる施設をつくりたいと思っています。この1月に、グラニの小倉社長ら全国の仲間とともに、一般社団法人「日本共生型サービス協会」を設立しました。福祉を必要とする人たちが適切な支援を受けながら、地域で当たり前にならるる社会をめざし、「共生型サービス」の普及啓発や情報提供を中心に活動していきます。ふつうの子が友達と遊んだり学んだりして成長する「当たり前」を、重症心身障害児でも「当たり前」にしたい。障害者と健常者が交じって「ふつう」に生きられる、真の共生社会をめざしたいと思います。」

にゅうすぽくす 平成31年4月23日発行

2019年 春号

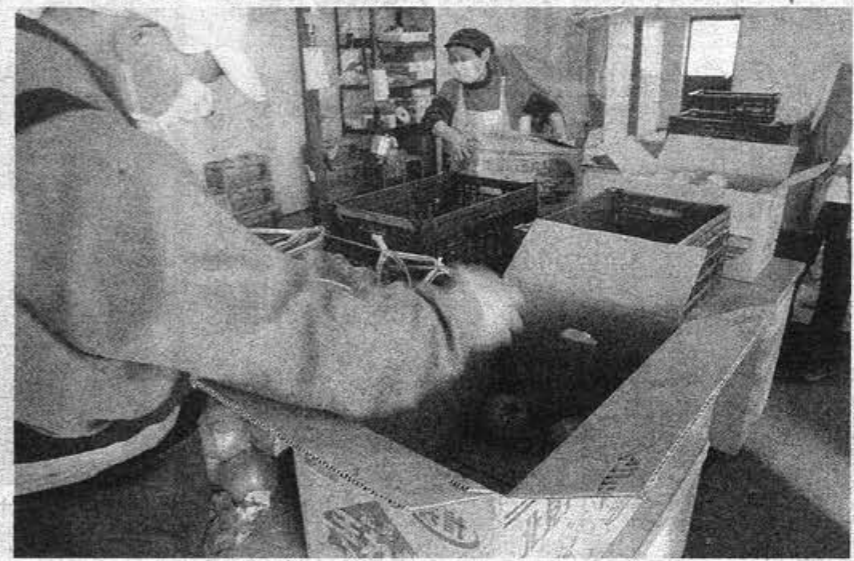


NPO 法人 「北斗七星」情報箱 No.1

あめんぼプロジェクト代表のりんたろうさんの母、野村裕子さん(51)は「こうした形で引き続き、目を向けていただけたら」と話している。 昨秋から新パッケージへの更新が始まり、現在は8種類の商品に使われている。今後も新商品を含め、順次増やしていく予定だ。中島さんは「お店の特長にもなるし、非常に面白い。従業員からもかわいいと評判です」と笑う。

# 農福連携の可能性探る

## みどり市笠懸町「PROPS」



野菜の袋詰めやパック詰め作業を障害者の就労支援につなげようと、障害福祉サービスのPROPS（＝プロップス、みどり市笠懸町阿左美、大野裕幸社長）が事業を始めた。昨年10月、桐生地方卸売市場の隣に就労継続支援A・B型事業所「大地の子」を開設。現在、会社と雇用契約を結んだ2人の利用者が4人の女性スタッフとともに、キュウリ・ジャガイモ・タマネギなどの野菜を選別し、小分け包装する作業に取り組んでいる。「障害者の能力を生かし、農福連携の可能性を探りたい」と、社長の大野さんは抱負を語る。

# 袋詰めめで障害者就労支援

## 市場隣に事業所「大地の子」開設し

大野さんは青果卸業「ダイチ」（太田市敷塚町）を営んでおり、桐生地方卸売市場にも頻繁に出入りしている。障害者の就労支援に興味があり、みどり市内で就労支援に取り組んでいた「野菜ハウスきらり」にも、野菜の袋詰めなどの仕事を発注していた。昨年、きらりが事業をやめたのを機に、自社社設立に踏み切り、事業所を開設した。サービス管理責任者、職業指導員、生活支援員と、「運営に欠かせない経験豊かなスタッフをきらりから引き継いだのが大きい」と、大野さんは話す。野菜の袋詰めやパック詰めには手間がかかる。北海道から届く詰めのタマネギを小売店側の注文に応じ3個、4個、5個と袋詰めする。夏は1袋5本

【メモ】就労継続支援事業は障害者総合支援法に定められた就労支援事業の一つ。企業などに就労が困難な60歳以下の人で、雇用契約を結んで一般就労を目指すA型と、契約は結ばず賃金をもらいながらA型や一般就労を目指すB型の2種類がある。

プロップスが運営する「大地の子」で働く利用者とスタッフ……

袋へのシール貼りや品質チェック、簡単な下ごしらえ、清掃なども作業の一端。利用者は自分の能力に合わせ、スタッフの支援を受けながら作業に取り組む。

最近では、生産者が袋詰めまで担うケースも多い。「農家の高齢化も仕事を発注する。小売店や仲卸の要望に応じ、桐生青果でも独自にパッケージ作業をしているが、要望の細分化や担い手の高齢化など、課題も見え隠れする。協力関係は両者にとってプラスになる。生産者の手伝いも

も地域農業の大きな課題。例えば施設外就労者として、利用者が生産者の手伝いに行くことも可能では」と大野さん。プロップスも「支援者みな自信を持って取り組むを目指す。勤務時間は、A型が午前9時～午後3時半、B型は午前10時～午後3時。定員はともに10人で、日・水曜日休。問い合わせはプロップス（電話46・9357、ファクス46・9358）まで。

## 障害者雇用 最高2.06% 県内企業

群馬労働局は10日、県内企業における障害者の実雇用率（昨年6月1日現在）が2.06%だったと発表し、前年比で0.10ポイント上昇しており、過去最高となった。全国平均（2.05%）を上回るのは19年ぶりとなる。最も低いのは「教育・学習支援業」（1.12%）だった。一方、法定雇用率（2.2%）を達成できた企業の割合は53.37%にとどまり、前年よりも4.18ポイント下がっている。

調査は、県内に本社がある45・5人以上の規模の企業1544社を対象に実施した。産業別で見ると、最も高い産業は「生活関連サービス業・娯楽業」（3.62%）



昨年とは県や市町村など公的機関で障害者雇用の水増し問題が明らかになっており、群馬労働局は「より改善していくために、ハローワークと一丸となって民間企業にも説明していきたい」としている。

平成31年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰（表彰式は17日、東京・霞が関の環境省で）。【いきもの環境づくり・みどり部門】▽浅川千佳夫（高崎市）

# ベトナムで障害児支援

## 青年海外協力隊 清水沙悠梨さん 「日本流の押しつけでなく」 来月から2年間

国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊（C.A.）の青年海外協力隊で、桐生市相生町五丁目出身の清水沙悠梨さん（28）が4月から2年間、障害児支援でベトナムにボランティア派遣される。特別支援学校に勤めた経験を生かし、現地で教員として子どもたちと関わるほか、同僚や保護者への障害児の指導法の



への障害児の指導法の教示、教材作成などの活動を行う。清水さんは相生中から桐生女子高、鎌倉女子大に進み、卒業後は神奈川県で中学時代からの夢だった教師の道に。大学のゼミをきっかけに障害児教育に関心を抱き、2013年4月から、川崎市内の

特別支援学校に勤務していた。派遣先はベトナム中部の古都・フエ市。「まささらな気持ちで臨みたい」と、18年いっぱい職場を退職。3カ月間、ベトナム語の研修を受けるなどして準備を進めてきた。「海外旅行が好きで、夏休みに発展途上国を訪れるうち、障害のある子の生活に興味を持ったが、観光客としてだと踏み込めない部分がある。もっと近いところで関わりたい」と抱負を語った。

派遣を前に亀山豊文市長を表敬訪問した清水さん（27日、桐生市役所市長室で）

2019年 春号

にゅうすぽくす 平成31年4月23日発行

No.1

# わが子はどの道に…悩む親たち

4/8 朝刊

## 障害児の学校選び 上

小学校入学を控えた障害のある子どもの保護者にとって、学校選びは悩みの種です。地域の子どもたちが通う一般の小学校の「通常学級」または「支援学級」か、障害児だけの「特別支援学校」か。それぞれ特色があるのに加え、地域差もあるからです。2回にわたって障害児の学校選びを考えます。

神奈川県に住む森口奈津子さん(36)の長男(6)は今年、新1年生になった。ただ、就学先が決まったのは、今年1月末になってからだった。

長男は自閉症。就学先は、地域の小学校と障害児だけで学ぶ特別支援学校があり、小学校の中も通常学級と障害児とのクラスがある特別支援学級に分かれている。森口さんは「勉強は多少できなくても集団の中で生きていく力を大事にしていきたい」と考え、地元小学校の通常学級を希望したが、教育委員会や学校からは、同じ小学校でも手厚いサポートがある特別支援学級を勧められた。「補助が必要などころは私がいじめるので」と申し出たが、通常学級に通う場合は、授業中ずっと長男に寄り添うことを求められた。入学式も迫ってきており、特別支援学級への入学を受け入れた。

一方、入学後、困ったことが出てきた時には、保護者と学校

「周りのお子さんとおれあい」を求めても、得られるのは「お手伝い」のみではないでしょうか。他のお子さんも、学ぶことが大切な時にお世話に追われてしまふのは本末転倒だと思えます。特別支援学校は、「身辺自立」に関する指導が手厚いと感じている。子どもが将来、福祉

### 障害がある子どもの就学先

#### 地域の小学校

##### 通常の学級

- 習熟度別指導や支援員が付くこともある

##### 通級による指導

- 通常学級に在籍
- 障害の状態に応じた特別な指導を別の場所で受けられる

##### 交流や共同学習

##### 特別支援学級

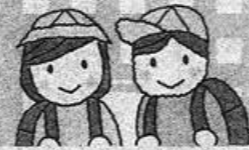
- 障害ごとに分けられた少人数学級で、子ども一人一人に対応した教育を受けられる

#### 特別支援学校小学部

- 自立のために必要な知識技能の指導が受けられる

- 障害の程度が比較的重い子どもを対象に、少人数で専門性が高い教育も

- スクールバスが運行されている学校もある



文部科学省作成のパンフレット「特別支援教育」を参考に作製

## 希望かなわず 学校側の勧め受け入れ ■ サポート体制 地域差も

の力を借りつつも自力で生きていくに欲しい。一方、地域とのつながりが絶たれてしまうのではないかという懸念もある。

一般的に、障害児の学校選びは6月ごろから夏休みにかけて自治体や教育委員会が開く就学説明会に始まり、学校見学、個別相談と進んでいく。今は「本人・保護者の意見を最大限尊重」(文部科学省)する時代になり、相談して決定する。障害の状態や医療など専門的見地からの意見、学校の状況を踏まえて、ふさわしい支援環境を教育委員会から示されることがある。ここで保護者の考えと一致すれば就学先が決まるが、違うとなかなか決まらない。

保護者が悩む理由には、近くの学校に特別支援学級がなかったり、支援員や教員によるサポート体制が各校で違ったりすることもある。「いい学校」と思っ

て入学しても、校長や教員の転勤で環境が変わることがある。転勤の季節である春は、転居先探しに苦労している家族も多い。

千葉県の主婦(45)は3月末、夫の転勤で大阪府に引っ越した。ダウン症の長男(5)は来春、小学生になる。上に2人のきょうだいがあり、大阪府内のどこに家を借りればいいのか迷った。

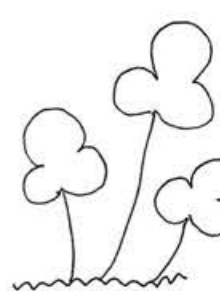
頼ったのが、大阪府内にあるダウン症の親子が集う団体だ。当事者目線の情報を持っているからだ。夫婦どちらかの実家に近いという条件も勘案して、四つの市を候補にした。次に4市の教育委員会へ電話で問い合わせた。特別支援教育の取り組みを聞いた。

「大阪は『ともに学び、ともに育つ』といったインクルーシブ教育に取り組んでいると思っ

ていましたが、自治体によって選んだ転居先の市は、長男の

あすは、専門家による学校選びのポイントを紹介します。

「ずっと、(障害に関係なく)みんなと同じがいいと思っ



### にゅうすぽくす

平成31年4月23日発行

NPO 法人  
「北斗七星」情報箱

2019年  
春号

No. 2

# 対人障害改善の薬開発

## 自閉症スペクトラムに

### 「幸せホルモン」鼻からスプレー

他者の気持ちを読み取るのが苦手など、対人コミュニケーション障害から生きづらさを抱えるとされる「自閉症スペクトラム障害（ASD）」。「幸せホルモン」も呼ばれる「オキシトシン」を鼻からスプレーする治療薬で、ASDは自閉症やアスペルガー症候群な

などを総称する診断名で、100人に1人の割合で存在。2〜3歳で特徴が表れるが、大人になるまで分からず、「職場で意図せず人を怒らせてしまうなど、トラブルにつながることもある」という。

山末教授は、ASD患者が男性に多いことに着目。女性の陣痛や母乳分泌に関わるオキシトシンが、協調性に関係するのではないかと仮説を立てた。臨床試験したところ、オキ

シトシンを鼻から吸引した成人男性患者は、治療前には活動が低下していた感情理解などをつかさどる脳の部位が活発化、「コミュニケーション能力の向上が見られた」。

近年、ASDの認知度向上に伴い受診率が上昇。診断者数も増加傾向にあり、社会的な関心も高まるが、有効な治療法はない。山末教授は「患者や家族、社会全体にも大きな負担が生じている」と語

り、早期に治療薬を開発したいと話す。山末教授は昨年12月、医療分野に貢献した若手研究者に贈られる内閣府の日本医療研究開発機構（AMED）理事長賞を受賞した。治療薬は現在、第3段階まである試験の第2段階で、全国7大学で試験を実施している。今後は、女性や子どもなどへの効果や安全性を確認し、2023年ごろまでの実用化を目指すという。

## 障害児の学校選び 下

障害のある子どもの就学先選びは、どのような点に注意すればいいのか。児童発達支援施設の専門家は「就学ノート」作りと、焦らないために早めの準備を提案します。

東京都文京区の住宅街にある「富坂子ども家」には、午前9時半になると母親や父親に連れられた子どもが登園してくる。自閉症や知的障害、ダウン症の未就学児だ。

靴箱に靴を入れた後、小さな椅子に座ってお便り帳を開き、その日の位置にシールを貼る。はがした後の紙くずはゴミ箱へ。リュックは、タオルを取りだし、自分のロッカーにかける。タオルは、タオル掛けにつるす。目印などを設けることで生活に必要なことが自分の判断でできるように支援している。

このような児童発達支援施設では、未就学の障害のある子どもの発達を促したり、保護者の相談を受けたりしている。施設長の勝間田万喜さん(54)は、就学先選びの心得としてこう話す。

「我が子の将来を見据えて真剣に考えることです。卒業までの6年先のことを考え、納得した形で決めることが大切。途中で選り直しをするにも、人の責任にすることなく、選り直しをしやすいたいです」

4/9 朝

# 4歳ごろからの見学で準備



時計を見て、決まった時間になったらお弁当を食べる準備をする子ども。東京都文京区の「富坂子ども家」



③「富坂子ども家」の勝間田万喜さん  
④「未来教室」の秋山明美さん

## 就学ノートで客観視 ■ 学びの継続も考慮

か、同じ障害でも子どもによって必要な支援が違ってくる。また、学校側の態勢も様々で、知的障害と情緒障害の子どもが同じクラスで学んでいる特別支援学級もあり、知的障害の子どもに手が回らなくなっているケースもあるという。

具体的には二つの取り組みを提案する。一つ目は、就学まで1年以上ある年中児（4歳児）の段階で、学校見学を始めていくこと。もう一つは、「就学ノート」作り。子どもをどう育てたいか、子どもの強みや弱みは何か、見学した学校のメリットとデメリットなどを整理する。客観的にアセスメントしていくためだ。

そして「抜けがちなのが、子どもの気持ちです。話すことが未熟な子には、自分の気持ちを言葉で表すことができません。親の思いと子どもの思いをすりあわせることが重要です」とアドバイスする。

また、義務教育の後の進路も、親にとっては悩ましいところだ。「人によって山の登り方は違いますが」というのは、元小学校校長の秋山明美さん(67)だ。障害のある人とならない人が可能な限り一緒に学ぶインクルーシブ教育に向けて学校改革をした。その後、NPO法人「特別支援教育研究会」（東京都文京区）を保護者と一緒に設立し、「未来教室」を開いている。「ここで取り組んでいるのは学びの継続です」と話す。

「人によって山の登り方は違いますが」というのは、元小学校校長の秋山明美さん(67)だ。障害のある人とならない人が可能な限り一緒に学ぶインクルーシブ教育に向けて学校改革をした。その後、NPO法人「特別支援教育研究会」（東京都文京区）を保護者と一緒に設立し、「未来教室」を開いている。「ここで取り組んでいるのは学びの継続です」と話す。

「未来教室」は、義務教育である中学校や特別支援学校中等部の後に当たる15〜18歳の生徒が通う。個別支援計画に基づき行われる。漢字、繰り上がり計算、時計の読み方、リコーダーの演奏、英検、美術、習字、水泳……。 「未来教室」では、社会のルールや集団のルールを地域社会の中で身につけていく。宿泊学習に行く時には、新幹線を利用し、複数の子どもたちが同部屋になって寝食を共にする。経験を積みながら社会のルールを教えている。

### 「就学ノート」作りのポイント

#### ◆整理していく主な項目

- ①どんな子どもに育てたいか
- ②どんな人生を送ってほしいか
- ③子どもの特徴は  
好きなこと、苦手なこと、得意なこと、助けてもらった方がいいことなど
- ④小学校卒業までのイメージ  
勉強、コミュニケーション、地元との関係など
- ⑤候補の学校ごとに見学して得た情報  
教員と児童の比率、教育環境、メリット、デメリット、感想など

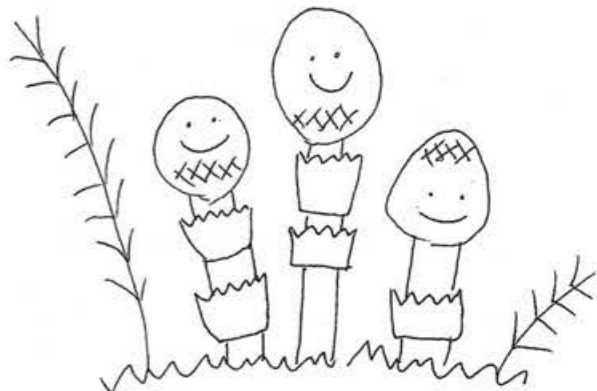
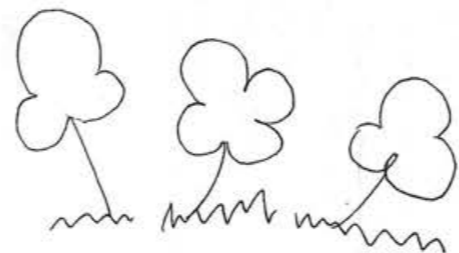
※「富坂子ども家」施設長、勝間田万喜さんへの取材から

国と区の公的助成を組み合わせても18歳までしか対象にならない。その後、学びを継続できるように「楷樹サークル」を2017年に発足させた。さらに就労への架け橋も作り始めている。秋山さんはこう語る。「目標は、小学校の中に小さな共生社会をつくるということです。それが中学校につながり、地域につながっていきます」

(右崎賢一)

## にゅうすほっくす

2019年 春号 No. 2



自閉症の息子と歩む人生

土木機材レンタル業

千葉 栄三

(宮城県 68)

私の息子は自閉症。いま35歳だ。障害者と言われるが、生きる権利を持っている。当たり前のようにどこでも連れて行く。好奇の目にはもう慣れた。お陰でいろいろな経験ができた。良い人にも巡り合えた。そんな子どもがどんなことでも一歩前進するとたまらなくうれしい。笑顔をみるともっとうれしい。だから希望を持って生きている。

行政や他人の力を当てにしてはダメだと肌で感じるが、被害者意識は持ちたくない。知識も組織もない普通のおやじだが、

今、自分ができることを自分なりにやれば良いと思っている。

順調に歩んでいた矢先、東日本大震災で仕事仲間や機材を失った。一昨年、狭心症が見つかり心臓を手術した。足の手術も4回した。真面目に積んでいった養の河原の石を鬼が来て一気に崩していった思いだが、不本意な人生と嘆くまい。誰も悪くはない。やり直せばいいだけ。

何よりも「親亡き後」の子どもへの安心を考えたい。人生の歯車が狂ったとしても、逃げ出さずに立ち向かうことでしか幸せは手に入らない。それが徒労に終わっても決して後悔はしない。父親の務めだと思う。



いっしょに歩んで

NPJ法人

「北斗七星」情報誌

平成31年4月23日発行

No. 3

2019年春号

一緒に過ごせば学び合える

日本語講師  
ヴェッツェル吉田 優子

(神奈川県 39)

13日の声欄「障害児の就学を考える」を読み、様々な意見があることを実感しました。私は、できる限り小さな頃から障害のあるなしにかかわらず、学びたい教室にいられるようにすることが望ましくと思えます。もちろん課題は多く配慮も必要ですが、同じ社会で生きていくうえで、小さな頃から同じ環境にいるのが自然だと思っております。

私は以前、幼稚園で自閉症の子を含む3歳児25人の

担任をしていました。補助教諭もおらず、初めはその子がパニックで他の子にかみ付くこともありました。

その時、過剰に騒いでいたのは親です。被害にあった子を含め、子どもたちは冷静でした。パニックになったり、かみ付いたりするのは原因があると気づいた子どもたちが、私に教えてくれるようになりました。子どもたちを通じて「学び合い」の意味を知りました。自閉症の子も、そうでない子も、担任の私も日々の体験から大きく成長したと今も思っています。

偏見はよき出会いを邪魔する

中学生 早坂 朱里  
(東京都 14)

去年から今年にかけて私にとって悲しいニュースがありました。「ニュージーランドの銃乱射事件」。これは差別が根幹にあると思います。しかし、人間はアフリカから各地に移住し、それぞれの文化をつくったのであり、祖先は一緒です。それなのに自分の中で自分より弱い者をつくり出し始めるのは、その人の心が弱いからだと思います。

「障害者雇用数の水増し」が起きたのは、「障害者は働けない」という偏見がやはりあるように思えます。私の祖母は本をたくさん読むので、虫や植物にくだしいです。体が不自由で日常生活に介助が必要ですが、できることを頑張っています。体の不自由な方は仕事が遅いかもかもしれませんが、他の方の励ましになるとと思います。差別や偏見があると人は成長できないし、素晴らしい人々にも会えないと思います。

母の「ごめんね」に涙あふれた

4/13 朝

高校生 矢野 陽菜

(香川県 18)

私は右耳が聞こえない。左耳も難聴だ。物心ついた頃は片耳しか聞こえない自分が嫌いだ。聞いてくれない自分が嫌いだ。聞いてくれない自分が嫌いだ。聞いてくれない自分が嫌いだ。

紙が届いた。母からだった。「両親が聞こえる体に産んであげられなくてごめんね」と書いてあった。読んで涙があふれた。そして「どうして私だけ耳が聞こえないのか」と何度も疑問を持ち、泣いたこともあった。

小学校6年のある日、一通の手紙が届いた。母からだった。「両親が聞こえる体に産んであげられなくてごめんね」と書いてあった。読んで涙があふれた。そして「どうして私だけ耳が聞こえないのか」と何度も疑問を持ち、泣いたこともあった。

長期欠席の子の調査 配慮して

介護福祉士 北見 奈津子

(東京都 51)

小学5年生の息子は、昨年6月から登校していない。彼は自閉症スペクトラムに分類されるらしく、友だちとのやりとりをきっかけに、体調不良や食欲不振に陥り、欠席を始めた。年明けから家庭内では明るく過ごせて、家族と一緒に短時間外を歩けるまでに。何より食事を自ら取れるようになった。何より体重が増えた。ここに至るまでの落ち込む姿、自暴自棄な言動に、どれくらい心が痛んだか。それらは学校へ行けないことを自責している現れであり、親

子で受けている病院でのカウンセリングが命綱だった。

朝、息子と一緒に新聞を眺めるのだが、「長期欠席 学校が状況確認」という、千葉県の小4死亡事件を受けて文部科学省が検討を始めたことを知らせる記事を見て、「先生が来るのが怖い」と気にしている。食事減らし始めた。

幸い、息子の担任の先生は、家庭の意思を受け入れており、息子の意思を尊重してくれている。しかし、今後は分らない。そっとしておいて欲しい子どももいるのだ。学校や行政が家庭に介入するには、配慮が必要だと思う。

「頑張った」長男

ひととき

11歳の長男が入院した。ひどい便秘で力子力子になった便が居座り、それを溶かす薬をおしりから入れるという。彼は知的障害を伴う自閉症である。急に叫んだり、脈絡のないことを言ったり、初対面の人にはなかなか意思が伝わり辛い。

いざ処置室に入ったのはいいが、ベッドに近寄らず、壁際に逃げてしまう。「お薬入れて治すよ」「タイマーが鳴ったらおしまいだよ」。声を掛けると、頭では必要性を理解しているらしく、従ってふりを見せる。でもすぐ、また私のもとに戻ってくる。周りでは主治医や看護師さんたちが何人も待機している。

忙しい彼らがしびれを切り、力づくとなってもやむなしと思っていたが、一緒に声を掛けながら待ってくれた。歩いては戻りを繰り返したのか、自分はいよいよ観念したのか、自分でベッドまで歩いて行った。終わると、「頑張った」と長男が言った。誇らしげな声に拍手が起った。

社会では、自分の気持ちをもっとくよくよと誤解されたり軽んじられたりすることもある。彼の気持ちを尊重してくれたスタッフの皆さんに改めてお礼を言いたい。ありがとうございました。

埼玉県本庄市

加藤 文

主婦 41歳

# 特別支援学級増設基準緩和

誌 3/5 新年度から2人ずつで1学級に

障害を持つ児童生徒の教育を手厚くするために県教育委員会は4日、新年度から県内小中学校の特別支援学級で障害の種類ごとに学級を設ける基準を、従来の「3人ずつで1学級」から「2人ずつで1学級」に変更することを明らかにした。

一つの特別支援学級で学ぶ児童生徒の上限は8人で、今年度までは知的障害、自閉症・情緒障害、肢体不自由など同じ障害の種類の子が3人ずついれば、学級を分離・増設できた。

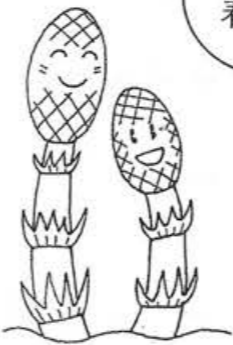
新年度からこのルールを「障害の種類ごとに2人の在籍で分離・増設できる」と改める。県内19校の19学級が対象になるという。

は新たに指導教諭を配置し、県教委は「個々に応じたい」と期待している。特別支援学級の充実については、昨年10月に伊勢崎市から県に請願が出ており、検討を進めていた。

## いっしょにがんばります

No. 3

2019年  
春号



## 障害と授業のギャップ苦しんだ

4/3 朝

無職 深澤 優

(静岡県 20)

私は聴覚や視覚などの障害があり、発達障害の可能性が高いと言われてます。知的障害はありません。3歳から16歳までのほとんどを県内外の聴覚の特別支援学校で過ごしました。ですが、中学までの経験で忘れられないことがあります。

一つは学習。中学3年になっても宿題は小学生レベルの算数のプリントでした。周囲の生徒とのスレも大きく、友だちはなかなかできませんでした。話すことが「難しすぎる」と言われ、会話が成立しませんでした。地域の学校に体験入学したこと

もありましたが、聴覚障害者の「コミュニケーション」を望める環境はなく、断念しました。全教科、独学で学びました。

また、特別支援学校でも、暴言を言ったり叩いたりする教師がおり、トラウマになって、今も治療を受けています。「出生前診断で聴覚障害がわかるようになったら産まれてこないかもしれない」というようなことを怒鳴られたこともありました。

この耳が聞こえていければ、この目がしっかり見えていければ、地域の普通の学校に通うことができたのに、年齢にふさわしい教育を受けることができたのに、と今でも思います。

## 個性に合わせた丁寧な指導望む

4/14 朝

無職 鳥羽 裕幸

(大分県 72)

今春、孫息子が小学校に入学した。彼には発達障害があり、こだわりが強かったり周囲とコミュニケーションがとれなかったりする。両親は心配しつつも多くの仲間と一緒に生活や学習をさせたいという願いを持っている。

障害のある人もない人も共に学ぶインクルーシブ教育が広まっているとの記事(7日本紙)を読んだ。特別支援教育の必要な子どもが多い現在、画一的な人間形成を目標としたかつての学校

教育とは違い、個性に合わせた丁寧な指導が必要だ。彼らのゆっくりとした成長に合わせてできることを伸ばし、

社会で生きていく力を引き出して身につけさせることが強く望まれる。これは通常学級でも必要なことだ。

同時に、周囲の大人たちも障害のあるなしで子どもたちを分け隔てしないという考え方や態度を身につけたいものだ。その意味では社会全体の意識が変わる必要がある。子どもたちはどの子ども社会の宝で、将来の日本や世界を背負ってゆくのだから。

## 障害児の居場所 未来考えて

4/3 朝

大学生 杉浦 有紀

(愛知県 21)

私は重度の視覚障害者だ。小学校から高校1年生までは地元の小中学校の通常学級に通い、2年生から地域や国立の盲学校を経て大学生になった。私の経験から、障害児の就学について二つのことが大切だと思う。

一つは親がその子の身につけるべき能力とは何かを考え続けること。障害を持つ以上、健常児よりどうしても将来苦労する。だからこそその子が社会に出る上で必要な能力とは何か、教師とも連携しつつ考えなければならぬ。そして長期的な目標を定めた上でどの環境に身を置くか

を考える。

もう一つは子どもが自分自身で居場所を作れるようにすること。私も学校でひとりぼっちのことがあった。それでも時間とともに、周りの子たちが私を「少し目が悪い子」として理解を示すようになった。私も年齢と共に自分の障害を理解し、相手に伝えられるようになった。少ないものの友だちを作ることができた。障害児にとって居場所作りはとても難しいことだが、その時つらくても逃げてはいけない。

障害の種類や個人によって必要な配慮は様々だが、まずその子の可能性を信じてほしい。

## 障がい児 地域での活動大切に

4/8 朝

NPO法人代表 船山 大介

(北海道 49)

私には、重度聴覚障がいのある息子がおり、高等ろう学校に通っています。また、私は聴覚障がい児を支援する放課後デイサービスの運営の仕事をしています。

息子は、市教委から「普通小学校」への通学が可能との意見をもらいましたが、学校を見学した上で特別支援学校を選びました。障がいの特性上、ディスプレイ型の授業には対応出来ませんし、ADHD傾向があると思われるお子さんが複数おり、色々な所から音が飛んでくる環境では難しいと判断しました。障が

いのある子どもも一緒に学ぶインクルーシブ教育は素晴らしい取り組みで、実現するなら障がい児を持つ親にはありがたいことです。しかし、実際には長い時間をかけなければ進んでいかないと感じます。

私は、町内会活動やスポーツクラブへの参加などを通じて、子どもを地域に出していくことが大切だと考えました。小学生の時には海外でのホームステイも経験させました。難しいケースももちろんあると思いますが、親が思うより子どもは「優秀」です。それを信じて家庭、学校、地域の三つの居場所を提供することが大事だと思います。

## 障害児育てる母に就労支援を

主婦 平野 千歳

(岐阜県 50)

娘は5歳で自閉症スペクトラム、私は50歳。6歳の娘を殺したとして45歳の母親が逮捕されたニュースに胸が詰まりました。娘さんは知的障害があったと報じられています。障害の娘、高齢の母という点は共通、他人事とは思えません。

障害児の子育ては次第に孤立していきます。若い両親にも頼りません。母親が追い詰められる背景として、地域や行政の支援不足のほか夫婦関係にも目を向けるべきだと思います。子

育ての悩みを共有し、夫が妻を支えているか。夫にDVや病気の問題があれば事態はさらに深刻でしょう。虐待にもなりかねません。子どもが犠牲にならないよう、障害児を育てる母親への支援を切望します。精神的、経済的に追い込まれがちな母親が、母でもなく妻でもない一人の人間としての自信を取り戻すため、就労支援が必要と感じています。短時間勤務も可能な仕事、経験を生かせる福祉分野の仕事など、障害児を育てながらも働けるよう支援してもらえませんか。





# お勧め図書館

「飼い殺しさせないための支援」～障害者が自立していく現場のリアル～  
高原 浩 著 河出書房新社 1,600円

やや過激なタイトルですが、長く就労支援に携わっている著者の経験を例示しながら障害者の就労に必要なことを考えている本です。

きちんと障害者を受け入れよう、理解しようと努力してくれる企業はあっても、多種多様な障害すべてに対応が可能というわけではない。こだわりや個性・特性が壁になった時にどのように調整したらいいのか。著者は、企業と障害者の間に立って解決策を探っていきます。さまざまなケースをとりあげて分かり易く書かれており、「働く」ということの意義や本人の成長、それを見守る喜びも伝わってくる優しい本です。 (森)

## 令和 元年度 賛助会員募集のお願い

今年も皆さんにお願いする季節になりました。

昨年も皆さんのご支援ご協力をいただき、北斗七星の運営にあたってまいりました。障害児・者、家族を取り巻く環境は、まだまだ厳しいものがありますが、更なる支援を進めてまいります。

つきましては、今後も引き続き皆さんに賛助会員としてご支援をお願いいたします。

年会費	個人	一口 3,000円
	団体	一口 5,000円

申込方法 最寄りの北斗七星会員まで  
または郵便振替用紙をご利用ください。

## 編集後記

何もかも新しく、初々しく感じられるこの季節。ちょっと疲れた心や身体を癒せるのは“遊び”一人ひとりを大きく成長させるのも、やはり“遊び”日々、指導員はそんな思いを大事にしながら、提供させてもらってます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。 (S・H)